

# 第23回市政e-モニターアンケート「災害に備えた行動について」 集計結果

## 【テーマ】 災害に備えた行動について

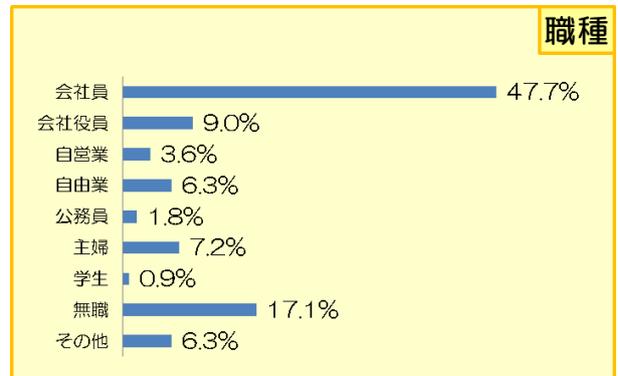
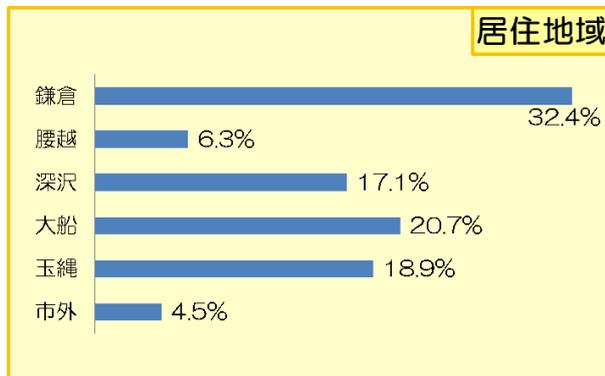
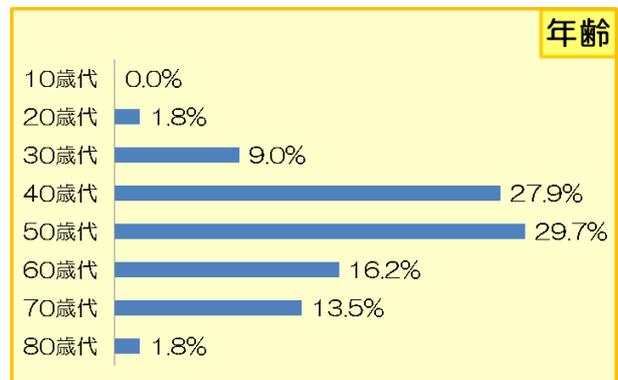
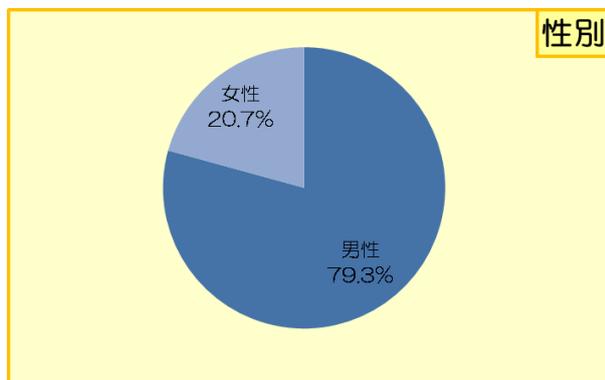
【目的】 市では、平成26年4月から、避難勧告・避難指示の発令基準を定め、広報かまくらや市ホームページなどで周知を図り、運用を開始しています。

(参考：<http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kouchou/documents/hinankankoku.pdf>)  
 今年10月の台風18号の接近に際して、市では初めて避難勧告を発令しましたが、その時に市民の皆さんが取られた行動を確認するとともに、災害に備えた皆さんの取組を確認させていただくことで、今後の防災対策の強化に繋げてまいりたいと思いますので、御協力をお願いいたします。

- ◆ アンケート送信日 : 平成26年11月25日(火)
- ◆ 実施期間 : 平成26年11月25日(火)～平成26年12月9日(火)
- ◆ 送信者数 : 298名(着信者数294名)
- ◆ 回答者数 : 111名
- ◆ 回答率(対着信者数) : 37.8%(前回より▲4.4ポイント)

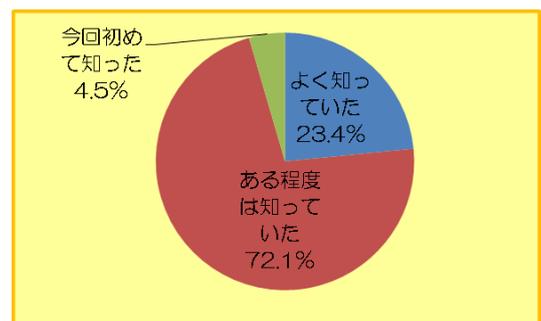


## 【今回の回答者の基本属性】



## ●質問1 避難準備情報、避難勧告、避難指示について、以前から知っていましたか？

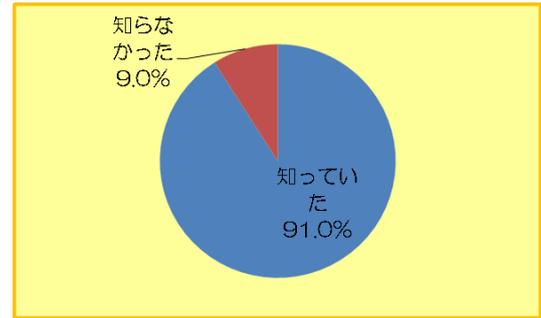
	(名)
1. よく知っていた	26
2. ある程度は知っていた	80
3. 今回初めて知った	5



大部分の方が、避難勧告等についての予備知識をお持ちのようでした。避難準備情報・避難勧告・避難指示の緊急度の違いについて周知が必要と感じます。

●質問2 台風18号の接近に伴い、10月6日（月）の午前に、鎌倉市から避難勧告が発令されましたが、そのことを知っていましたか？

	(名)
1. 知っていた	101
2. 知らなかった	10

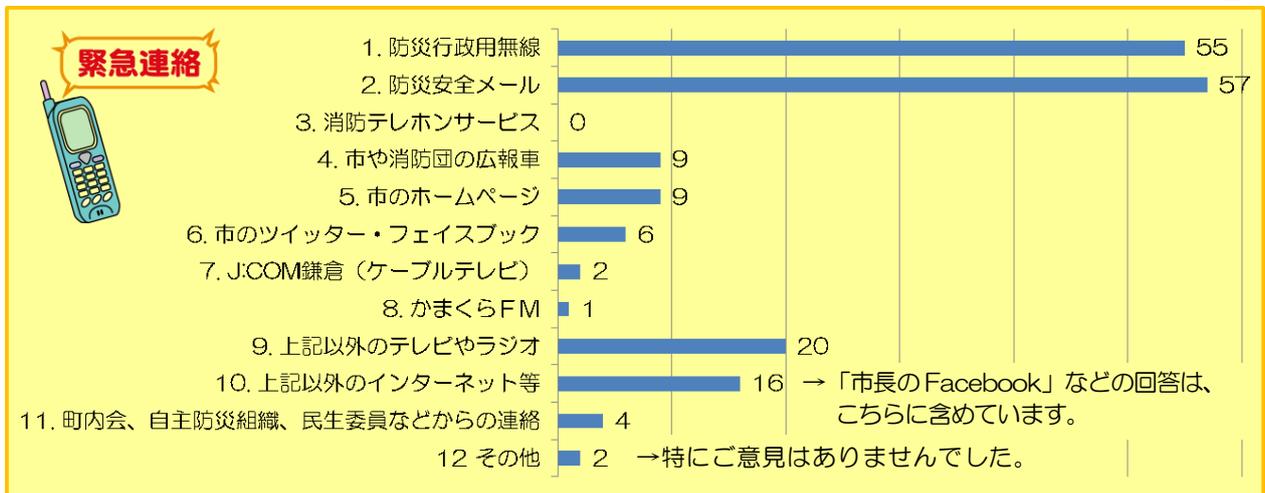


鎌倉市としては、初めての避難勧告発令でした。大部分の方が、何らかの方法で発令の事実をご存じであった点を踏まえ、皆さんが早目に行動できるような情報発信を工夫してまいります。

●質問3 質問2で「1 知っていた」と回答した方にお尋ねします。どのような方法で知りましたか？

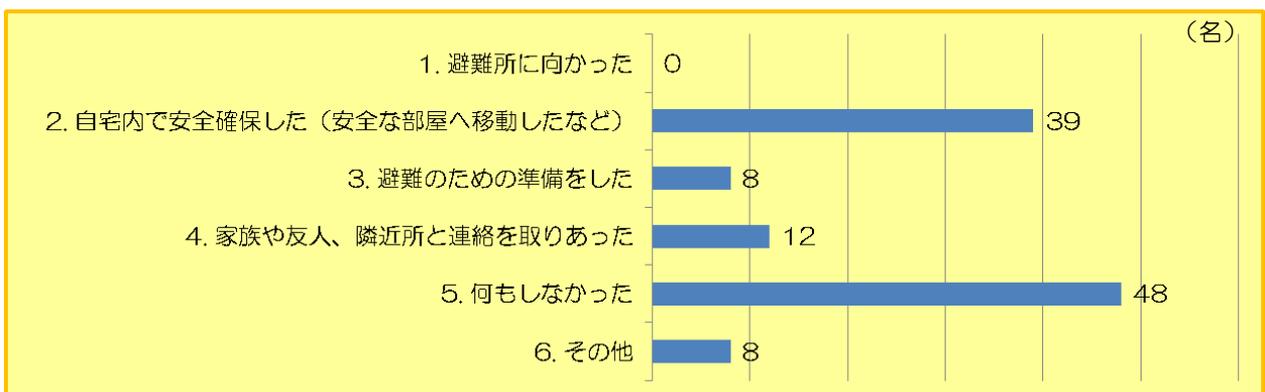
【複数回答可】

(名)



市からの情報提供は、防災行政用無線と防災安全メールが中心であることが表れています。情報提供手段のさらなる充実が必要であると思われます。

●質問4 質問2で「1 知っていた」と回答した方にお尋ねします。避難勧告の発令を知って、どのような行動を取りましたか？【複数回答可】



※「6. その他」の意見（同様の御意見は集約しています）

- 日ごろからある程度備えているので特段の措置はしなかった
- 対象地域から離れているのでその後の展開を注視した。
- 会社にいた（出張していた） など



自宅内での安全確保行動を取った方が多い結果となっており、危機意識の高さを感じられました。

●質問5 質問2で「2 知らなかった」と回答した方は、理由をお聞かせください。【自由記入】  
（同様の御意見は集約しています）

- 市外にいた。
- 勧告だから。
- 防災行政用無線が、よく聞こえなかった。
- 防災行政用無線がいつも聞こえない。大雨なら尚更である。
- 防災行政用無線が鳴っていることは分かるが、内容についてはほとんど判読できない。
- 広報紙とか鎌倉ケーブルテレビを観ていたのですが、見逃してしまいました。
- メールが何通もきていて、鎌倉駅周辺だと思って、自分の住んでいる地域とは思わなかった。



市では、情報提供の充実に向けて努力していますが、災害時は、様々な形で情報が提供されますので、自ら情報を得る行動もお願いします。

●質問6 市からの災害情報の提供について、改善すべき点があればお聞かせください。【自由記入】  
（同様の御意見は集約しています）

《改善点なし》

- 市の広報車が大きな音で災害情報の提供をおこなっているが適切であり、改善点は特に見当たらない。
- 良く機能していると思います。横浜市だったか、発令内容をwebで見よというにも関わらず、アクセス集中で参照できないなどといった課題があったと思います。ぜひクラウドを含む様々なメディアを通じての発信を継続してください。

《平時からの準備》

- 普段からの心構えが必要と思いました。また、町内会との連携も必要です。
- 自治会、町内会と何らかの連携がとれるとよいと思います。
- 災害時の情報提供ではなく、平時における情報、つまり、自分の住んでいる場所はどういう状況でどういう被害の可能性があるのかを周知徹底することが大切だと思う。
- 避難所の食糧及び毛布など、備蓄量が少ないのでは。
- 平時に災害時の対応をもっと市民に周知して、市民の防災対応能力を上げる工夫をしてほしい。今回のタイミングで避難するのは現実的ではない。

《防災行政用無線の改善》

- 台風や風水害等の場合、窓を閉め切っているので聞き取り難い。
- 防災行政用無線が入りません。なんとか入るようにして欲しいです。
- ノイズが入り、また距離的な事情もあり聞き取りづらい。
- 音の反響等で聞き取りにくく、何を言っているかわからない。
- 防災行政用無線が聞こえ難いところの対策が不十分。
- 鎌倉と藤沢の境に住んでいるので、藤沢の防災行政用無線は聞こえるが、鎌倉のは殆ど聞こえない。
- スピーカーからの距離と音量によると思いますが、自宅からは詳細を聞き取ることが出来ませんでした。



- アナウンスの仕方が前時代的で、尚更聞こえづらいと思います。
- 話し始めの言葉は聞こえ、途中大切な言葉が聞きにくい等、くせの繰り返しでわからない時がある。風向きや飛んでいる場所等によるかもしれないが。
- 防災行政用無線の明瞭度の向上と、地域に即した具体的な指示が必要だと思います。特に高齢者にとって、避難行動につながるような具体的で簡潔な内容を望みます。
- 風雨が強いと放送は全く聞こえないので、インターネットやメールが使えない人たちは不便なのではと思う。何か対策をしてほしい。
- 騒音の問題もあるかと思いますが、緊急時のみ音量を上げる検討をお願いします。
- 災害情報は、ボリュームを更に大きくする工夫をしてください。
- 防災行政用無線の設備が自宅近くに設置されているが、あまり良く聞こえない。特に台風など強風を伴う場合は窓を閉めきっていることが多く、放送されていることに気が付かないことが多い。気が付いて窓を開けて聞こうとしても風の音に邪魔され、放送内容を聞き取って理解することが困難。そのような時は市のホームページにアクセスし、内容を確認している。何らかの工夫が必要だと思う。
- 聞きにくいスポットが有るようです。聞こえにくい地域を洗い出す必要があります。また、防災に関する内容と行方不明者の安否を問う内容が混在する場合があります。JR鎌倉駅で上下線の発車チャイムが異なるように、目的別（せいぜい2〜3）イントロを用意してはどうでしょうか。また、防災の場合、15分程度おきに状況の進捗具合をながしてはどうでしょうか。
- 台風や災害の情報に傾聴する手段が必要です。まず情報伝達のサイレンにより、市民は可能な情報入手方法を選択する。
- 情報のレベルに応じた発信がほしい。気象庁の警報と行方不明者が同じでは困る。警報と分かれば詳細はTV、防災Telで入手できる。放送前後のアラームレベルで区別できる。
- 聞こえても何を言っているのかわからない。もっと短い言葉で事前に市民には浸透させておいて、その言葉を連発するような工夫が必要。
- 玉縄地区では一部、防災行政用無線が聞き取れない場所がありますので、基地局（電柱マイク）を増やして欲しい。



防災行政用無線を中心に、災害情報提供について多くの意見をいただいています。市では現在、防災行政用無線のスピーカー改修に取り組んでいます。

#### 《防災安全メールの改善》

- 防災安全メールの場合は、もう少し詳しい情報を流してはどうか。
- 防災メールをもっと周知する。
- 防災無線は、場所により耳の遠いお年寄りには聞こえないことがあるそうです。一時期に比べ、音の聞こえはグッと改善したように思いますが、防災安全メールを利用できないかたもいると思うので、もっと別の対応が必要なのではないかと思います。防災安全メールも認知度が低すぎます。より多くの市民に登録してもらうよう広報に力をいれるべきではないかと思います。

#### 《伝え方の改善》

- 行政からの避難勧告・命令等は、すでに気象が荒天している状況での発令がほとんど。女性・子連れ・老人では避難は難しい。事前情報として避難勧告予測情報等を広報し、早い段階での避難を促してほしい。
- もっと早く災害情報がほしい。谷戸在住のため、10月6日の避難勧告発令時には、すでに避難が厳しい状況でした。
- 知らなかった人もいるようなので、想定される被害の程度によっては、多少煩くても重複しても良いから必ず伝わる様にしたい。
- 避難勧告が発令されているとき、自宅が土砂災害地域に該当するかを確認したかったのだが、HP上のハザードマップが開かず、確認出来なかった。災害時、ネットワークがパンクするのはある程度仕方ないが、必要であろう情報について、多くの人が閲覧できるように、何か工夫をして欲しい。本当に避難すべき地域を、具体的に提示することは出来ないか？ 避難すべきかどうかの判断が非常に難しかった。
- 避難勧告がどの地域に特に関与するものであるかを、より明確に連絡した方がいい。海沿いと山の方では地形も異なる。冠水の恐れがある地域、土砂崩れの恐れがある地域が事前にある程度把握できているのであれば、その地域に重点的に勧告をするなどの方が望ましい。防災無線でただ「鎌倉市全域に」と言われても、残念ながらあまり危機感を感じない。

- 鎌倉市には毎日たくさんの外国人観光客も来ているので、情報が多言語でないといけないと思う。
- 「避難所を開設した」と言われても、避難所でどんな対応をもらえるのかわからず、戸惑った市民がいたのではないかと感じた。避難者には、どの程度の準備をして避難所へ行けばよいかを伝えるべきだと感じた。
- 様々なアプローチを組み合わせ、情報過疎地が生じないようにして頂きたい。



避難勧告発令時に、自分が勧告の対象かどうか分からない、といったご意見は多くいただいています。26年3月に各戸配布した「かまくら防災読本」に、災害別のハザードマップが掲載されています。お住まいの地域にどのような災害の危険があるか、事前に確認をお願いします。さらに、地域別に危険箇所をわかりやすく解説した資料の作成を検討しています。

### 《新たな伝達方法の検討》

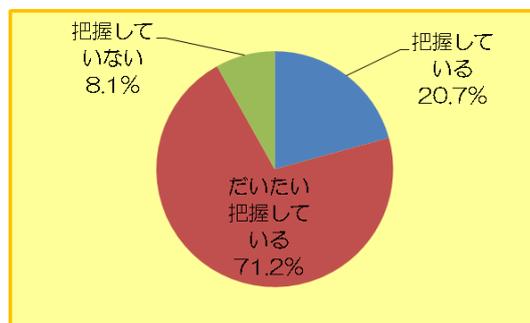
- 情報が強制的、自動的にテレビ画面に写されるとよい。
- 各家庭への直接連絡（メール、電話等）の方法を考えてみては？
- 小生、耳が余り良くないので、瞬時に目で判断できる方法の検討を望む。
- 強風雨では防災無線が聞こえない。電子メール以外の情報伝達手段を検討すべき。（私の田舎では各戸に有線放送システムを設置しており、強風下でも情報の入手が可能です。）
- 通常時でも、防災鎌倉が聞き取りにくい地区に住んでいるが、暴風雨の際は特に聞き取りにくい。CATVの全チャンネルで通知する、エリアメールを利用するなど、情報を取りに行かなくても知る事ができる手段を複数準備するべきだと思う。
- 避難勧告が出ていたことは知っていましたが、小さな子供を連れてあの雨の中を出る勇気がありませんでした。市独自サービス（メールや防災無線）も必要ですが、エリアメールの配信はいかがでしょうか？横浜市・藤沢市はエリアメールで配信が来ていました。鎌倉市は市民以外の観光の方も多いため、エリアメールは有効だと感じました。
- 防災放送がわかりにくく、携帯等が使えない人もいますので、簡単に別の方法でも周知させる方法を考えてほしい。



今回の避難勧告発令時には、エリアメールを使用しませんでした。が、今後はエリアメールを活用して、広く周知する計画です。

### ●質問7 自宅や自宅の周辺にどのような災害の可能性はあるか把握していますか？

	(名)
1. 把握している	23
2. だいたい把握している	79
3. 把握していない	9



災害の可能性を把握しておくことは大変重要です。さらに、災害の種類によって、どのような行動を取れば安全かシミュレーションしておきましょう。

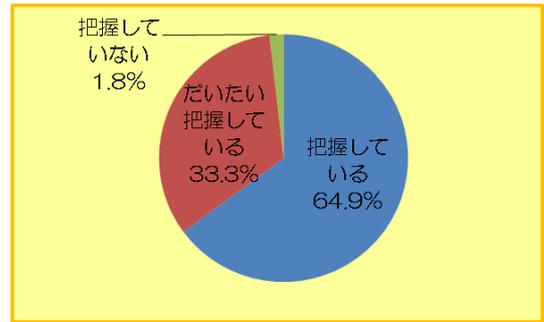


●質問8 自宅の近くの避難場所を把握していますか？

	(名)
1. 把握している	72
2. だいたい把握している	37
3. 把握していない	2



避難場所へのルートは、複数把握していただくようお願いします。

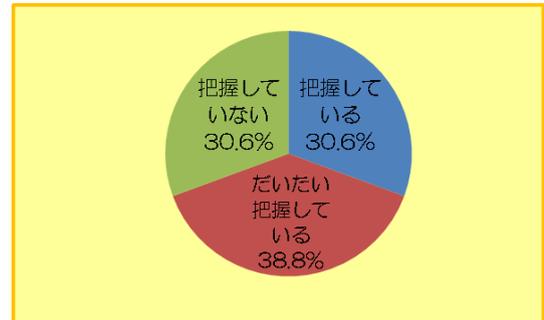


●質問9 勤務先などよく行く場所の近くの避難場所を把握していますか？

	(名)
1. 把握している	34
2. だいたい把握している	43
3. 把握していない	34



自宅以外で被災する場合も想定しておくことで、いざという時に余裕を持った行動が可能となります。さらに、帰宅困難となる場合もありますので、家族との連絡方法を確認しておいたり、職場等に必要な物資を備えておいたりすると安心です。  
(例：スニーカー、飲料水ペットボトル(500ml)、携帯食糧、懐中電灯、携帯電話充電器、など)



●質問10 災害の可能性や避難場所を正しく把握するためには、どのような手段が有効だと思われますか？

【自由記入】

(同様の御意見は集約しています)

《平常時の情報収集や意識強化》

- 市民側が知る努力をするよう促すしかない。
- 個人の災害に対する意識強化。
- 個人の危機感の問題。
- 家族間で日ごろから話し合うことが大切である。
- 平常時からの防災意識による情報収集。
- 休日に避難場所を確認しておく。
- 広報紙等をよく読んで、周囲の避難場所を調べておく。
- ご近所の方や、家族でよく話し合うこと。地元で古くから住んでいる方の情報は有効だと思う。
- 災害の具体例や避難場所、その他必要事項をメモして、ポケットに入れて置く(実施しています)。
- 災害の可能性は、各種広報される情報も参照しつつ、天候状況から自分で想定も行う。避難場所の把握は、ルートや地理条件なども見ながら、実際の避難の際にはどうなるかも考えながら、実際に避難場所に事前に行っておくこと。
- 基本的には住民が自らの危険を普段から把握するべきで、すべて行政におんぶにだっこは許されないと思う。必要な情報周知は、就学児童・生徒が世帯にいれば学校を通じて、そうでなければ回覧板などを通じて広報が適当ではないか。



## 《防災・避難訓練》

- 防災訓練等を通じ的確に周知徹底する。
- 防災訓練に参加すること。
- 避難ガイドと、実際にそこに行けるかの確認。
- ミニ防災拠点等での泊まりがけの訓練を、2、3年に1回程度定期的実施してはどうでしょうか？
- 地図を見たり文字で読んだりするだけでは不十分。実地訓練を時々実施するのが有効だと思う。
- 訓練。毎年防災の日の前後に町内会で実施してはどうか。そのとき、避難場所まで実際に歩いてみるのがよい。

## 《町内会や自主防災組織の取組》

- 町内会を有効利用して知らせるのがよいと思います。
- 町内会のつながり。
- 町内会の回覧板での定期的・頻繁な周知。
- 地域における自治会の回覧板、連絡提示版等を利用した提示。
- 自治会で自主防災計画を持っている。今年度作成したもの。
- 自治会等の回覧板も大切だと思います。特に高齢の方はインターネットをあまり活用していらっしゃらないので。
- 高齢者が増えている中、みんなが同じレベルで避難活動を期待するのは無理であります。自主防災組織の強化を計る支援を行い、災害時には彼らの活動により、避難活動を助けてもらうのが良いと考えます。
- 自治・町内会など、地元の自主防災組織から正確な情報を何度でも広報する。防災組織に加入していない場合は、商店街連合会など公的団体が広報する。情報はできるだけエリアを特化する。
- 自治会体制の強化。小規模地域ごとの複数回以上の会合と予行演習。次いで種々の情報提供手段（放送、IT、電話など）の強化。情報入手手段から漏れる可能性がある者の事前予測と連絡方法の確保、など。



## 《市の取組》

- 防災行政無線や市ホームページ。
- 防災行政用無線で、地区ごとにきめ細かく指示する。
- 広報車の巡回。
- 市の広報紙や配布物がよい。
- 新聞のチラシや市の広報等で反復PRする。
- 避難場所、誘導冊子、携帯用ハンドブック等を各個人や家庭へ配布。
- 市からの広報、町内会等单位で周知、学校PTAなどと共同で情報提供。
- 地図と災害の種別毎の行動を簡条書きにした、簡潔な冊子を各戸に配布し常備させる。
- とにかく、頻繁に告知することが必要だと思います。たとえば、「広報かまくら」での告知や、街中の至る所に看板等を掲げると良いと思います。
- 市の広報紙や災害マップ等での周知。市主導での（地域単位等での）災害対応訓練や講習会の開催。駅や主要公共施設での災害関係告知掲示の強化。
- インターネットでの広報と印刷物配布の組み合わせによる周知。
- 広報かまくらには、四半期に一度程度情報の掲載頻度を増やす。既に実行済みかと思いますが（？）、町内会の掲示板に避難場所を明示して掲示する。
- 地区別の細かい危険箇所地図の配布。（市全体だと自分が住んでいる所の危険度が分かりづらい為、防災に対する意識が薄くなる様に思います。）
- 地区別に、自分の住んでいる場所はどういう状況で、どういう被害の可能性があるのかを周知徹底することが有効だと思う。
- 災害の可能性は、何らかの手段で連絡をされないと市民サイドでは把握はほぼ不可能。防災無線では、特に危険な地域名を特定して勧告すべきだろう。避難場所は、防災無線の連絡で周知が可能だが、そこまでたどりつけるかは状況による。緊急に助けを求めるための鎌倉市役所の電話番号、緊急メールアドレスなどを事前に周知徹底しておくのもいいかと思われる。
- 特定者（高齢者、障害者、独居者）への重点的PR。
- 情報を聴取する意欲のある人には、ハザードマップなどの情報提供を強化すればよいと思う。防災情報に興味がない人は、その人々向けに何が危険かを教育するチラシを配布して「市の努力」を残しては？ そのように市が努力しても、防災情報に興味が無い人が災害にあえば自業自得でしょう。



## 《防災マップ等》

- 標識や防災マップの配布での周知徹底。
- 避難場所等のマップを配布したり、ネットに掲載したりする。
- 住所を入力するとマップと連動するようなシステムがあればいいと思います。
- 防災マップや住所を入力すると避難場所が示されるシステム(PCやスマートフォン、携帯電話等で確認)、看板の設置。
- 災害タイプごとに、災害危険箇所、過去の被害状況、避難所マップが一望できるものをインターネット上にアップする。自分たちの住んでいる住宅付近の活断層などの情報が、マップ上で正確に確認できるマップはあるのでしょうか？
- 以前配布されたハザードマップなどのパンフレットは非常に良かった。鎌倉市在住の人にも、これから引越して来る人にも配布することは非常に有効だと思った。小学校や幼稚園などで、親子向けに講習会などがあれば、子育て世代には周知が行き渡ると思う。
- 災害の種類で避難場所も変わるのでは？ 大雨の場合と大地震の場合とでは違う気がします。広い鎌倉市ですべてを網羅した防災マップを作るのは大変でしょうが、工夫が必要だと思います。

## 《案内板や標識》

- 日頃目につく様な大きな看板などに表示しておく。
- 電柱や住所表示に、最寄りの避難場所を表示する。
- 地域内の立て看板（既存）、学校での避難場所啓蒙（既知のはず）。
- 標識など、その場を具体的に示すものを、わかりやすい形で設置する。
- 市からのDMなどで個々人の認知を高めたり、いまの広域避難場所の標識のほかに、街中のあちこちにある海拔m数の標識のような、もっとシンボリック的な標識を掲示したりするとかでしょうか…。
- 道路の案内板や回覧板に加え、定期的に防災鎌倉でも放送してもらえると、市外からたまたま来ている人などは、ありがたいと思います。
- コンビニ、商店など、人がよく利用する場所、通り掛るところに情報を表示する。必要に応じて立て看板、案内指示板などの設置も必要だと思う。



## 《その他（インターネット・防災メール・メディア等）》

- 市のホームページに詳細を表示することぐらいしか、現時点では考えられない。
- 自治体のHP、地域のwebサイト、SNS、広報紙等。
- ホームページなどで調べられるようにしておくこと。出来るだけ詳しく。
- 私にとっては、メール、インターネットなどが有効な手段です。
- 交信が可能なら、やはりネットは便利だと思いました。特に最近市長が頻繁に情報を流してくださいますので。ただ、不通になってしまったときには、お手上げですが。
- 防災メールへ記載するなど、メールサービスを拡充する。
- 防災安全メールに、適切な避難場所の情報も含めてもらえると良いと思います。
- 防災無線は聞こえないので無効。防災メールは役に立っているので、今後も早めのメールを希望する。
- テレビで天気予報などを設定している「鎌倉市」をクリックしたら避難場所がわかるようなシステム。
- 電気がつながらないと思いますので、ラジオからの情報が有効です。



建設的な提案を多くいただき、ありがとうございました。今後の参考にさせていただきます。

なお、《防災マップ等》の項目でお尋ねのありました、活断層等の情報については、神奈川県のパージで確認することができます。

【神奈川県活断層】

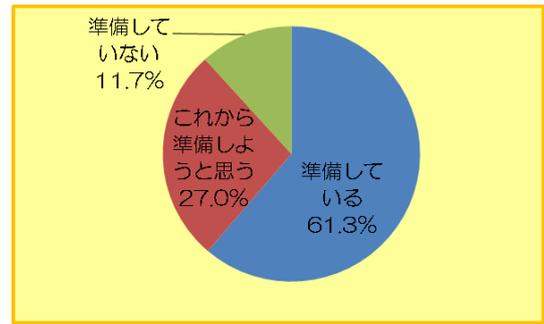
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f5152/>

【e-かなマップ】

<http://www2.wagamachi-guide.com/pref-kanagawa>

●質問11 万一の場合の避難に備えて、非常持ち出し品などを準備していますか？

	(名)
1. 準備している	68
2. これから準備しようと思う	30
3. 準備していない	13



※「3. 準備していない」の理由（同様の御意見は集約しています）

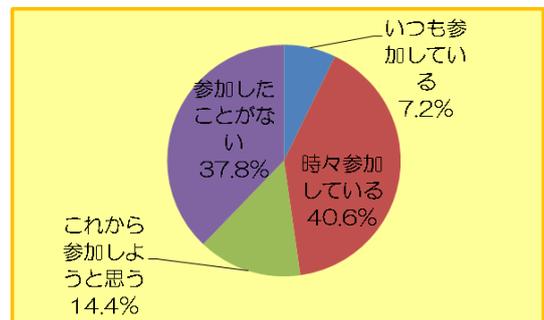
- 特に理由はない。考えたことが無い。
- 実感が無い。
- 費用がかかる、内容物の維持管理、補給などが面倒。
- なんとなく揃っている。
- 会社にはあるが、自宅には具備していない。
- 一部準備していたこともあるが、防災に対する意識が低くなっている。
- 事前に分かる災害は、その時すぐ準備できるぐらいまでの用意はできている。直下型大地震のような突然の災害の場合は用意していても無駄。
- 非常時に自分がどこにいるか分からないので、特別に非常用という分別をした物をどこに置いておくか決められないし、縛られてしまう気がするため。ある程度、普段の生活の中でストックは用意している。



非常持ち出し品は、いつでも使えるように、時々点検することが必要です。また、保存期限が迫った食糧は、実際の災害を想定して、電気や水道、ガスなどを使わずに食べてみるとよいでしょう。

●質問12 地域の避難訓練や防災行事に参加したことがありますか？

	(名)
1. いつも参加している	8
2. 時々参加している	45
3. これから参加しようと思う	16
4. 参加したことがない	42



※「4. 参加したことがない」の理由  
（同様の御意見は集約しています）

- 機会がない。
- 情報が無いので知らない。
- もともと地域行事にはあまり参加していない。
- 予定が入っていたり、気づかなかったり、忙しさに紛れて。
- あまり意識していないので、予定を積極的に把握していない。
- 参加する時間があわない、時間がとれない。
- いつも平日の実施だけなので、時間が合いません。
- 職務休暇を取らないと参加できない。数か月以上前であれば休暇を確定できず、日程が調整できない。
- 参加しても、得られる情報が少ないと勘ぐっていた。
- 訓練の域を出ず、実際の状況とは程遠い。
- 目的（地震、津波、土砂災害等）と方法（避難、炊き出し、救助等）を明示した訓練をみたことがない。一般論では内容が薄く、浅く、対応力が小さくなる。
- 東日本大震災の被災地の状況をきちんとヒアリング調査し、本当に使える訓練にしてほしい。
- 地域の避難場所より、自宅のほうが地形から見ても安全であり、災害時はまず自助が大切と思うから。
- 自家で行っているから。
- 顔みしりの会合の場となっているし、訓練通りでは避難できないと思う。
- いつ実施しているかを知らない。本当にためになる訓練をやっているとは思えない。（実際の実施内容を知らず、一般的なこれまで経験した訓練から想像しています）



訓練などを通じて、地域の顔の見える関係づくりが重要です。

●質問13 その他、災害に備えた行動に関して、御意見がございましたらお聞かせください。

【自由記入（200文字まで）】

（同様の御意見は集約しています）

《情報提供》

- 鎌倉市の災害は津波高波、土砂崩れ、竜巻風水の3つが主なものなので、地区名と合わせて具体的に避難勧告をしてください。外れる事があってもかまいません。
- 車で移動中の水害等が一番怖いです。危険箇所を知りたいと思います。
- 防災行政用無線が何を言っているか聞き取れるようにして欲しい。
- 台・山崎地区は、山間のエコーによって防災行政用無線が非常に聞き取りにくい。リアルタイムで同時にメールを配布する方法など、整備すべきかと思う。
- 付近の被害状況がリアルタイムで分かる、パブリックビュー的な装置があると良い。
- 戸別に案内を出した方が良い。
- 新聞の折り込みチラシ、市報など、より多くの方が自然と目に付くようにしてもらいたいと思います。
- 町内会の備蓄や非常時のための活動などを、広報やケーブルTVなどで紹介など如何でしょう。
- 公共の建物以外でも、高い場所への避難ができる施設（スーパーや一般ビルなど）をもっとわかるようにしてほしい。
- 海岸が多い地域なので、津波発生時の避難場所の明確化をお願いします。
- 鎌倉市は地形の特性上、がけ崩れに注意が必要だと思います。崖の近くに住んでいる方へはもちろん、崖の近くを日常的に通行する市民や観光客に対する危険性の周知も（いろいろ難しいと思いますが）お願いします。必要とあらば、利便性は下がりますが、当分通行止めのような対策もありだと思えます。
- 子どもたちに学校はどう指導しているか知りたい。どう教育しているかを知る事により、近所の子供に対してより効果的な対応がとれる。
- 鎌倉の道は狭いので、大規模地震のよる火災発生に対してどのような施策を立てているか広く伝えるべき。
- 市の熱心な取り組みがあっただけか、市民・個人団体主催のイベントなどで、避難場所をパンフレット等に掲載したり、主催者の認識が徹底されていたりすることが多いので、すごいことだとありがたく思います。さまざまな災害の危険がある土地ですし、消防署・警察署が海の近くにあるのがとても不安な要素ですが、情報提供等、力を入れ続けていただきたいなと思っております。

《備蓄品・災害用品等》

- 鎌倉市では食糧の備蓄をしているのか気になった。3年前の東日本大震災では、食糧不足が起こり、スーパーや小売店の食糧がなくなり、帰宅難民問題と併せてかなり大きな問題となった。少なくとも1週間以上分の備蓄が必要になると思う。
- 身に危険が迫った時には避難しますが、避難場所は場所の提供だけで備品が備わっていないと思うので、（冬は毛布など）出来る範囲で備えて欲しい。今は自己判断で自宅の2階など安全な部屋に移動して、TVやPCなどで経過を見守りながら過ごす事にしています。
- 自治会を通した防災用品・備蓄食料の安価な提供。携帯型防災無線の戸別貸与。
- 防災グッズ、携帯ラジオ、懐中電灯など、市が補助するか安価で購入できるようにしてもらいたい。防災の日、市民の日、広報でアナウンスしてください。
- 市での非常時の食料、水などの備蓄状況や、近隣避難協力事業所や店舗等の明確化とマップ等の配布。
- 自治体としては、避難所や支援物資の備蓄はさることながら、支援物資の配布要領等を演練しておくことが肝要です。これは、前回の震災でも支援物資が集積所にたまったまま配布されなかった自治体もあったという事実からの教訓です。さらには、各町内においては、人員の把握が課題です。特に、独居老人等一人で住まわれている方の把握が肝要です。



市では、避難所となる市立小中学校に、防災資機材や非常食糧の備蓄を進めています。

《自助・共助》

- 自分のことは自分で守る精神の徹底。
- 結局のところ、自分の身は自分で守るしかないと思う。
- やはり、ご近所との日ごろの連携が重要かと思えます。



- 健常者については、基本は自己責任だと思う。本当に大きな災害の時に、市役所の職員が個々人の面倒をみるのは不可能。災害にあいたくなければ自助努力が必要であり、何でもかんでも役所に頼るのは、健常者でない人々に害を与えている事をもっともっと周知すべき。その一方で健常者でない人や物理的に避難が難しい人などには、より一層の努力を重ねて保護すべき。
- 鎌倉は地域ごとに地理的な環境が違うので、災害への備えも自ずと変える必要がある。山や川、崖、断層等の危険度を学習し、常に心にとめる必要がある。まずは日頃から周囲の環境に目を配る習慣を持ちたい。
- 地域住民の把握および連絡網の完備。
- 先日の長野県北部の地震で、「遠くの親戚より、近くの他人」実感した。
- 本当に被災したら、すぐには行政でも対応できなくなるということをもっと周知するべき。そのために3日間は家族で、1週間は地域でお互いに助け合って生き延びる備えを日ごろからするべき。町内会よりもっと小さな単位で気軽に話し合える場ができるといいかと思案中。自宅の近所で試みてみたいと思う。
- 現実に災害が起きた時には、近隣の方々とすぐに協力し合うことが大事だが、近隣の方々の平素の状態をあらかじめ把握していくことが必要ではないか。そのためにはある程度プライバシー侵害になったとしても、他人の安全のほうを優先することを第一に考えるべきではないか。
- 会社で災害時（大規模地震等）に地域に使ってもらえる地下水施設の設置を検討中。
- 城廻、玉縄台、清水小路町内会と、トランシーバを使った玉縄地区の災害時情報ネットワークシステム構築を目指し、活動を始めました。現在、玉縄地区の北側がカバーできますが、南側はまだカバーできていません。参加する町内会を増やして、全地域をカバーできるように考えています。災害時の避難通路、ライフラインの復旧状況、病院の状況等の情報交換だけでなく、食料や飲料水の助け合いにも発展させたいと考えています。
- 仕事で外出する際には、地図と携行食とライトを持っている。併せてスマホとガラケーを所持し、家族との連絡方法と待ち合わせ場所を決めている。

#### 《避難訓練》

- 過去に起きた災害事例をベースにした訓練、PRが必要では？ 過去は約300年をカバーすればO.Kと思う。各人に実感させ真剣に取り組ませる工夫。
- 以前、海岸線住民に対する津波避難訓練で、御成中学校への訓練をしましたが、年に一度ぐらいは時間を変えた（朝、昼、夜等）訓練をしてみたら？ 時間帯によっては参加する層が変わり、多くの人が経験するチャンスでは？
- 日頃は中々その気にならないが、地域ぐるみの防災訓練や避難訓練の徹底に尽きると思う。
- マンションでは避難訓練等をしているが、無関心派が多いので困っています。

#### 《災害時要援護者への対策》

- 基本は平時における備えだと思う。地区別の災害可能性情報、個人別の災害可能性情報＝災害時要支援者の近隣地区での把握が重要であり、そのためには市役所は縦割り組織ではないプロジェクトを組成し、防災課、高齢いきいき課が共同して市社協、地区社協、地区民児協を巻き込んだ対策を作る必要がある。
- 災害対応については、放送だけではなく、自力避難できない人達へのフォロー等も、自治会等で組織化した体制を徹底しなければいけないと感じた。
- 避難困難者対策が重要と考えます。
- 現在自治会で黄色いハンカチ運動の計画を検討中。



災害時要援護者対策は、地域における支援プランの策定を目標に、取り組みを進めています。



#### 《その他》

- 「油断大敵」の言葉が、大切ではないか？
- 行政と地域との連携。
- 土砂災害も重要だが、津波などの対策の方が重要なのではないのでしょうか。
- 植木の崖崩れのように、宅地開発に無理があると思えるケースがある。山林の維持管理がいい加減になっている所もあり、斜面の保水力減少が危惧される。
- 大町地区等、新規宅地開発（分譲等）が進むエリアに公園がなく、避難場所が足りなくなっている。公民館などのキャパシティの限界もあり、広場の確保は必須と思う。



### 【総合防災課から】

東日本大震災以降、市民の方から、家庭での備蓄品や災害時の避難場所について、多くのお問合せをいただいています。防災意識の向上とともに、避難場所の確認や、家庭での備蓄品（非常持ち出し袋）については、ある程度ご対応いただけていると認識しています。

しかしながら、地域の防災訓練に参加したことがない方や、連絡方法の確認が取れていない方が半数を超えているなど、災害発生時の具体的な行動についてまでは踏み込めていないと感じています。

この点について、今後は、積極的な訓練参加を呼びかけていくほか、防災講話や各種広報媒体等を利用して、市民の方への周知を図りたいと考えています。

災害対策においては、公助への期待が大きいと感じておりますが、あくまでも自助・共助・公助の充実が必要であることから、効果的な防災対策が取れるよう、今回のアンケート結果を、今後の施策を行う上での参考とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

### 【お問い合わせ先】

鎌倉市 経営企画部 秘書広報課 広報広聴担当

〒248-8686 鎌倉市御成町 18 番 10 号

TEL 0467 (23) 3000 内線 2505

FAX 0467 (23) 6505

e-mail : [emoni2505@city.kamakura.kanagawa.jp](mailto:emoni2505@city.kamakura.kanagawa.jp)